

城北



令和 2 年 9 月 1 日現在
 総世帯数 3,704
 総人口 7,850
 男 3,751
 女 4,099

20年 城北 ひろばと共にひろばと歩んで 新田町会 佐藤 明彦さん

月晴れた空そよぐ風 今日も
 ひろばに歌声響く…
 あゝ憧れの福祉ひろば月

福祉ひろばに今月も、軽妙な司会と話術に笑顔の輪が広がり、美声が響きわたります。平成十二年に公民館・ひろばが開館されてから、二十年



間にわたり共に歩み支えてくださったのが、佐藤さんです。初代コーディネーターからの依頼で、『カラオケ同好会』の『つっぺカナリヤ』を立ち上げ、曲の合間のお茶飲み話の中に、参加者から「私は家にいる時はテレビとお話しているのよ」と聞き、一人暮らしの方に

には日常会話と、茶飲み友達が必要と感じたそうです。

そこで企画したのが、何を話してもいいが、他人の悪口だけは言わない約束の『井戸端会議』です。ゲーム

よりお茶を飲みながら、録画ビデオの歌番組を見るほうが好評でした。新年会・お花見・母の日・暑氣払い・忘年会などを企画し、

現在も毎月第一木曜日に開催されています。

その後昼食を皆で作って食べようとの案が出て、まず餃子を作り次は五目御飯に挑戦しましたが、準備が大変で中止となりました。そこで誰でも好きな『カレー会』はどうかと提案し、大勢の方に声が

けして、第一・第二水曜日が「何でも有りの日」でしたので、この日に開店しました。

『井戸端会議』も『カレー会』(現在は『レストラン「夢」』)もひろば事業の一環として、店長や支配人は変わりましたが、令和の現在も続いており人気抜群で、毎回満員札止め

の盛況です。

『カレー会』は当時、国と市の共催の『タウンミーティング』で視察に訪れた、坂口厚生労働大臣が来店され、カレー味に舌鼓を打たれ、ひろ

ばの取り組みを高く評価されました。感謝の言葉と色紙をいただき、記念写真と共に忘れることのできない、ひろ

ばの宝物です。

佐藤さんは「本音を言い合える皆さんに恵まれ、資金難のなか煮物づくりなど数々の無理かと思う企画に、快く協力していただき、差し入れな

どでご苦労くださった大勢の仲間

に助けられています。

仲間に助けていたのだいたから続けられた、感謝したい」と話しておられます。



夏休み前後の午後、開智小学校の5年生が冷房のある城北公民館で、10日間授業を受けました。

「涼しくて、暑気度が違って楽しい」と子ども達。涼しい部屋で勉強できると、子ども達も楽しみにして来たのですよ」と、先生。

みんな晴れやかな顔で部屋から出てきました。

最終日、子ども達から公民館への感謝状をいただきました。

平和を語る会

城北地区人権啓発推進協議会主催

8月3日、約40名が出席し、始めに「親愛なる、あなたへ」のビデオ鑑賞が行われました。42年間サラリーマン生活を送った主人公の妻亡き後、家族・近所とのつながりの変化を40分間の物語にまとめられました。

後半は、松本市の人権・男女共生課から「人権が尊重される安全・安心のまちづくりをめざして」と題して新型コロナウイルス感染症によって病気になる以外にも差別や不安、嫌悪感が生まれ、信頼関係や社会とのつながりが破壊されてしまうこと、それらをふせぐための話を聞きました。

恒例のすいとしん試食会は、3密の恐れがあるため中止となりました。



歴史とロマン講座 信濃の国の城と 城下町



8月17日、原明芳さん(松本市文化財審議委員)を講師に迎えた歴史とロマン講座(第三回)は外氣を取込み席間を十分にとりマスクをした受講者へ県下に築かれた城とその城下町の変遷を話されました。

飯山から飯田まで多い時には13の城持ち大名がいました。松代の真田十萬石が最高石高で、中小大名達それぞれの城郭規模は小さく天守を持つ城は少数でした。また松本のような規模の大きな城下町を形成していたところは他にありません。松代でも善光寺平の経済は善光寺町が担い、町人街は生活必需品の調達を専らとしていたようです。

大名は堀を廻らした城郭を欲しいところです。幕末、城主格となった岩村田の内藤は

財政の苦しい中、築城を始めましたし、臼田は五稜郭の竜岡城を造ってしまいました。絵島生島で有名な高遠城の歴史や、急坂の宿場町・城門から下った場所に本丸を構え千曲川河畔にそそり立つ小諸城郭など、各城にまつわる面白い話題を図面や映像で満喫させていただきました。

風景の中に、ミヒヤエル・エンデ、松谷みよ子の世界の資料が展示され、別館では、いわさきちひろの山荘も見ることが出来ます。エンデは「モモ」「はてしない物語」で知られるドイツの作家です。

公民館の木に カワラヒワが巣作り



8月下旬、公民館入口の木にカワラヒワが巣を作り、子育てしているのを見つかりました！

文化部主催 バス研修

信濃町にエンデと一茶と

ナウマンゾウを訪ねる

8月26日、コロナ感染対策として人数制限された中、募集した20名の参加者はバスの車内で、講師の後藤芳孝さん

も続けられていると言う事で、遺跡への関心の高さが伺われました。

児童館の周辺は、これから



2年に一度愛好家による発掘調査が現在で

秋になるとコスモスが丘一面に咲くといわれています。コロナでの非日常の生活が続きますが、「モモ」を読み返して童心に返りながら時間旅行を楽しみたいと思いました。

また今回の研修で、一茶が生家に戻ってからの人生が結婚や離婚、子どもの死など波乱万丈であったことを知りませんでした。そんな一茶の俳人だけではない人間臭さを理解した上で、田辺聖子が執筆した「ひねくれ一茶」も読んでみたいなど、さまざまな想像の世界に遊ぶことが出来ました。マスク着用・猛暑の中ではありましたが、非常に思い出深い一日となりました。